

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程，学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の、授業や教師に対する評価が高く、授業改善がうまく進んでいる ・総合的な学習の時間が自分にとって有意義だとする生徒が多い。今後YCKプロジェクトを進めることでさらに肯定的な意見を増やしたい ・すぐメールの効果的な使用が評価されている，今後の利用方法の検討をさらに進める 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を実施、分析することで授業改善に結びつける ・公開授業，研究授業を計画的に行い，教科研究会の実施により，指導力等の向上を目指す ・習熟度別，進路別授業を充実する ・初期指導，定着指導を徹底し，学習習慣の確立を促す 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会，各教科会と連携を密にする ・全校での公開授業や研究授業の実施 ・教育課程委員会，学習指導委員会の運営 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 本校の向かうべき姿の共通理解 (2) あらゆる機会を通じた授業改善 (3) 教育課程の編成	(1) 授業評価 (2) 定期考査，課題テスト，模試等の統計 (3) 教育課程のさらなる充実と検討	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や公開授業による授業改善 ・授業評価による授業の点検と改善 ・初期指導，定着指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の数値化 	① 授業は改善されたか ② 家庭学習時間は増えたか ③ 子に合った学力はついたか ④ 教育活動は円滑か ⑤ 生徒は満足しているか	A (B) C D A B (C) D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○研究授業や公開授業を行うことにより，授業改善への意識を高め，教員間での交流ができた ○初期指導，定着指導が軌道に乗り，充実してきた ●本校の取組が保護者や地域にまだまだ理解や周知されていない ●中学生の本校希望者数について，なかなか増加が見込めない	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・学校開放日への参加を促すため，地域や中学生の保護者への周知を徹底するよう広報活動を重視したり，参加しやすい環境設定を検討したりする 		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒については今までの指導で継続してゆきたい。また、保護者については、一部「厳しすぎる」「もっと楽しく」という意見もあったが本校は今まで通り、規範意識を高める指導で継続したい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇倫理観や規範意識、自他の人権と生命を尊重する態度を育てる。地域と一体となって生徒の健全育成を目指す。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会や関係分掌との連絡を密にし、全職員で迅速に対応する。 ・MSリーダーズの活動をより自主的に行う。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「生徒指導の指針」くいじめ防止基本方針」をもとに指導の共通理解、共通行動を行う。 (2) 「生活規律、規範」への注意事項を具体的に提示し、その場での指導を行う。 (3) 積極的な地域活動への参加。	(1) 問題行動やいじめの発生の有無。 (2) 生徒の人権が尊重され安全かつ安心な学校生活を送れたか。 (3) 地域の活動へ積極的に参加できたか。 (4) マニフェストの数値目標が達成できたか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・日常生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導、情報モラル指導）の実施。 ・規範意識の高揚を図るための文書の配布や注意呼びかけの実施。 ・自主的なMSリーダーズ活動への援助。	① 問題行動の状況や発生件数。 ② 安全安心な学校生活を送ることができているか。 ③ 積極的に地域の活動に参加できたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D	
11 成果・課題	○情報モラルに関する問題やいじめがなかった。 ○身だしなみが整ってきた。 ●規範意識の定着と自主的な活動		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・自律心を養い、より自主的な活動ができるようになる。 ・保護者や地域と連携し、生きる力を育成する。			

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒は本校の進路指導を概ね肯定的に評価しているが、個々の可能性を引き出すよう適切な指導を求めている。 ・保護者も本校の進路指導を概ね肯定的に評価しているが、保護者が必要とする進路情報の提供を求めている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が個々の適性・能力に応じて、生きがいをもって人生を歩めるライフプランニングができるようなキャリア教育を進める。 ◇生徒・保護者・職員にとって必要な進路情報の提供をさらに充実させる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・渉外部、キャリア推進部及び各学年会との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 進路指導計画に基づき、低学年の進路学習、小論文学習及びYCKプロジェクトの内容を検討する。 (2) 模試のデータ分析を各教科の指導に活かす工夫をする。	(1) 進路研究、小論文学習及びYCKプロジェクトを通じて、各自の進路意識が深められたかどうか。 (2) 模試分析が教科指導等に活かされているかどうか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・3年生の面接・小論文指導を全職員による個別指導に加え、生徒自身によるグループでの面接練習の機会を設け、定着させた。 ・全学年による土曜講座の内容が充実した。 ・YCKプロジェクトの様々な活動への参加を通じて、自分の在り方、生き方や進路を考えさせる。	① できるだけ早い時期に進路目標を設定できたか。 ② 情報を分析して、自分の意見をまとめる力がついたか。 ③ 模試等の結果を分析し、教科指導等に活用できたか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果・課題	○全職員による3年生の面接・小論文指導が定着し、さらにグループによる面接練習を生徒自身が行うことで自信をもって臨めるようになった。 ○YCKプロジェクトの様々な活動への参加を通じて、多数の生徒が地域の状況について知ることができた。 ●上記に関し、地域課題を分析し、自分の意見をまとめて、発表する。 ●模試の結果分析を各教科でも行い、特に授業で活用する。		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案 ・YCKプロジェクトを1年総合学習の中に組み入れ、自分の意見を発表する機会を設ける。 ・生徒の進路希望状況を踏まえた、低学年でのキャリア教育を充実（インターンシップなど）させる。 ・教員研修会で模試結果分析の仕方などを学び、授業で反映し、生徒にフィードバックする。			

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇キャリア推進部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ボランティア活動や地域の文化的活動に参加することへの生徒の意識は非常に高く、保護者も YCK プロジェクトに対して大きな期待を寄せているようである。 ・従来型の「総合的な学習の時間」や LHR は有意義な時間であると感じていない。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域課題解決型キャリア教育を地域と共に推進する。 ◇生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育成する。 ◇生徒が社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことを促す。 ◇生徒が地域社会と課題を共有して、自主的に関わられる仕組みを構築する。 ◇学校全体で継続して取り組めるよう、学校・行政・地域との連携を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部及び各学年会との連携。 ・同窓会や育友会に YCK プロジェクトへの協力要請。 ・チーム吉城として目指すべきビジョンの教職員間共有。 ・地域に向けた効果的な広報活動。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)地域（行政・団体・市民等）と「講演会」を開催し、地域課題についての関心を高め、理解を深めさせる。 (2)地域課題ごとにチームを編成する。 【地域観光】【地域福祉】【地域教育】【地域防災】 (3)テーマごとに「懇談会」「施設見学」「協働活動」を実施する。 (4)学んだことを「検証」、「整理」、「分析」させる。 (5)地域課題解決のための「提言」を地域に向けて発信させる。 (6)YCK プロジェクトを「総合的な学習の時間」に位置づけて実施し、全体計画と実施計画の見直しを随時行う。	(1)各種ボランティア活動にどれくらいの生徒が、どのような目的意識を持って参加し、何を得たか。 (2)YCK プロジェクトを通じて得た経験を通して、各自の進路意識がどれくらい深められたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・【地域観光】の分野で5つ、【地域福祉】の分野で5つ、【地域教育】の分野で5つ、【地域防災】の分野で8つと、延べ1,500人の生徒が、地域行政と連携し、多種多様な協働活動を実践した。 ・YCK プロジェクトの様々な活動への参加を通じ、自分の在り方、生き方や進路を考えさせる。	①生徒が主体的に地域と協働できる機会を提供できたか。 ②地域課題を分析して、自分の意見をまとめ、発信する力はついたか。 ③学校ビジョン（目指すべき姿）の実現に向けて、職員がより確かな当事者意識を持っているか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
1.1 成果・課題	○これまで盛んに実践してきたボランティア活動を【地域観光】【地域福祉】【地域教育】【地域防災】の4つにまとめ、吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトと銘打って、地域行政と連携した協働活動を実践できた。 ○YCK プロジェクト中間報告会を実施し、様々な活動への参加を通じて、多数の生徒が地域の状況について知ることができた。 ○【地域×高校キャリア教育】の研修会を開催し、本校職員と地域住民が意見交流できた。 ●上記に関し、検証・整理・分析することで、高校生の視線で提言できることを模索し、地域課題解決に貢献するという最終段階までは、まだまだ到達できていない。 ●より多くの生徒が計画的に見通しを持って参加できるような提示ができなかった。	
1.2	来年度に向けての改善方策案 ・「総合的な学習の時間」に位置づけて YCK プロジェクトを推進していけるよう、年間指導計画作成に向け、校内各分掌や行政、地域の各種団体との打ち合わせを具体的な内容で進める。 ・事業の推進にあたっては、中長期的な見通しを持って具体的な計画を年度当初に提示する。 ・活動を単発的なもので終わらせるのではなく、活動前に動機づけを行い、活動後にはリフレクションの時間を設定することで、活動内容の共有化を図る。 ・活動の検証・整理をもとに、高校生として地域課題への提言を発信する。このように PDCA サイクルを活用し、活動全体を通して体験したことが、生徒自身の進路実現に反映できる流れを作る。	

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒会行事（球技大会・柏葉祭等）に充実感や達成感を味わっている。 ・部活動は多くの生徒が活発であると感じている。 ・保護者からも、上記のいずれも活発に活動しており、期待感を示している。 ・ボランティア活動では保護者への広報活動が十分とは言えない。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実を図る。部活動に目的意識を持って、自主的・自発的に参加させることにより、部活動のより一層の活性化を図る。ボランティア活動の活性化を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・定例的に執行部会をもつなど生徒会執行部と特活職員の連携を密にする。 ・特活部と他の分掌、担任との連携を密にする。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 執行部会・生徒議会・各種委員会活動の活性化 広報活動の活性化 (2) 部活動の形態・内容・方法・環境整備等の援助 部紹介・壮行会・伝達表彰の実施	(1) 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況 アンケートの実施とその結果分析 (2) 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数 入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒会諸行事に向けて執行部会、生徒議会、体育委員会、文化委員会、柏葉祭実行委員会等の会議の開催と、広報活動による情報提供 ・部紹介、壮行会、伝達表彰の実施 部活動費及び備品費の適正配分と活動環境の整備 ・老人ホーム訪問など定期的なボランティア活動の実施	①生徒会活動を活性化させ、球技大会・柏葉祭等の諸行事に充実感や達成感を味わわせることができたか。 ②目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。 ③ボランティア活動に主体的に取り組ませることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒会行事では、それぞれのねらいに応じた全校生徒の主体的な取り組みと協力体制により、その行事の成果に充実感や達成感を味わうことができた。 ○部活動では、多くの生徒が年間を通して目的意識を持って参加することができ、全国大会出場や最優秀賞の受賞などめざましい活動があった。 ○ボランティア活動では、家庭クラブによる養護老人ホーム訪問、部活動やMSリーダーズなどによる清掃活動など積極的に取り組めた。 ●柏葉祭や球技大会などの諸行事での企画・運営等を一層充実させる手立ての検討 ●部活動において退部させない工夫	
12 来年度に向けての改善方策案 ○生徒会活動のより一層の活性化を図るとともに、生徒会行事を通して集団への所属感や生徒相互の連帯感及び好ましい人間関係を深めさせたい。また、生徒会行事における職員のより一層の共通理解を深めていきたい。 ○部活動を通して責任感や連帯感等の人間関係を形成するため、目的意識を持って自主的、自発的に部活動に参加できるように指導・援助をしたい。また、顧問の配置については、職員の理解を得ながらより適正な配置ができるようにしていきたい。		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇環境美化・安全点検・防災	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・清掃活動においては昼掃除が定着してきたが、重点箇所を設ける等、掃除方法等計画性をもって取り組むとより効果が上がると考える。 ・健康管理については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮している。また、安全・衛生面では事務部との連携を図りながら、早めの対応に努めている。 ・非常変災時対応における緊急メール使用等による帰宅確認は定着してきたが、危機管理能力向上という面ではまだ意識が低いようである。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇各種検診の受診結果を把握、自己の健康管理ができるようにする。 ◇事故防止や安全管理に対する意識の高揚に努める。 ◇積極的な環境美化に努める（教室環境、トイレ清掃について）。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健安全委員会、安全衛生委員会 ・生徒保健委員会、生徒環境委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 各種検診の事後措置、健康相談 (2) 生徒対象の保健だより	(1) 検診後、精密検査等の再受診率 (2) 日本スポーツ振興センターへの災害報告等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒個人への受診勧告、健康相談、保健だより等での健康面の啓発活動。 ・職員・生徒への事故防止の周知徹底、体育授業時、部活動時における事前指導及び点検。 ・毎月1回、職員による施設等の安全点検、職員と生徒による教室環境衛生点検・トイレ環境衛生点検、生徒によるHIBINO点検(毎日)での教室環境への整備意識づけ。 ・環境委員によるゴミの分別収集、手作りのポスターによるトイレ使用マナーの励行。	①生徒の健康管理 ②事故防止 ③安全管理、環境整備 ④防災	(A) B C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○各種検診・検査については職員の協力や生徒の受診マナーについて学校医から高い評価を受けるなど年々良好になり、滞りなく実施できた。 ○保健委員と職員によるトイレ点検・保健だよりの発行、環境委員と職員による環境衛生点検、ゴミ分別収集、トイレ使用マナーポスター掲示等により、環境美化に対する意識が向上してきた。また、生徒によるHIBINO点検を行うことにより、教室環境整備意識が高まった。また、本年度カーテンを5教室分クリーニングしていただいた。破損物の取り換えも含め、順次お願いしたい。 ●トイレの使用マナーまだ十分とは言えない。マナー教育が課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・来年度より「運動器検診」を全校生徒対象に行うことになった。県の指針が12月初旬に出されるので、それをもとに対応策を考える必要がある(検診期日、方法、その後の対応等)。 ・本年度4回命を守る訓練を行った(1回は放送による啓発)が、さらに災害時に対応できる能力を身に付けさせる工夫ある訓練を検討していきたい。		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育相談	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校からの不登校生徒も毎年複数名入学し、生徒も多様化しているため、保護者や職員間の連携を図り、生徒の状況を正確に把握して対応する必要がある。 ・生徒への「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」という項目では肯定的な意見が69%で、昨年度から肯定的意見が7割近くで安定している。保護者への「教職員は悩みを持つ生徒に対して親身に相談に乗っている」という項目でも肯定的意見が79.8%で昨年度より増加し、生徒・保護者ともに学校の相談体制への評価は年々良くなっている。生徒や保護者において教師が普段から相談相手として位置づけられており、また教師も親身な対応をしていることがわかる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇日常的な相談活動と情報交換により生徒の状況把握に努め、関係者との連携を図って、高校生活への適応と自立への支援をする。 ◇人権同和教育を推進し、自他の人権を尊重する態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年会との連絡、連携 ・生徒指導部や保健室との定期的な情報交換、連携 ・職員会議での生徒に関する情報交換 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校不適応生徒に関する情報収集、情報交換による状況把握 (2) 関係者との連携と相談活動	(1) 情報交換が不断に行われているか。 (2) 生徒の状況を踏まえた適切な連携と相談活動が実施されているか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と情報交換（担任・学年会・生徒指導部会・保健室・職員会議等） ・hyper-QU、夏休み明けの統一LHRの実施 ・日常的な相談活動（気になる生徒への声かけ、生徒・保護者との面談等） ・迷惑調査、人権統一LHRの実施、「人権便り」の発行 	① 情報交換による共通理解ができてきているか。 ② 学校不適応生徒や保護者への適切な相談活動ができたか。 ③ 人権意識を高め、人権侵害の早期発見・早期対応に努めているか。	A ② C D A ② C D A ② C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校不適応生徒に関する様々な場での情報収集と情報交換によって、職員間の共通理解が得られ、配慮を持った指導ができた。 ○ hyper-QUの実施と職員研修会、迷惑調査の集計結果報告、夏休み明けの統一LHR実施などを通して、生徒理解を深めることができた。 ● 学校不適応生徒の保護者との面談はしばしば行い、相談室登校の生徒との面談もできたが、相談室に来なくて休みがちな生徒への対応はあまりできなかった。相談部としてのコンタクトの取り方について検討したい。 	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や発達障がいのある生徒に適切に対応するため、研修や専門機関との連携のあり方を検討する。 		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇図書部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事の充実を望む声がある。 ・利用しやすい図書館が求められている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇資料を効果的に利用し、読む力だけでなく、自ら考え問題提起のできる力の育成をめざす図書館 ◇豊かな読書生活を展望できる図書館。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書運営委員会 ・図書選定委員会 ・生徒図書委員会 ・図書部	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝読書の充実化。 (2) 「現代フォーラム」継続実施。	(1) 読書に親しむきっかけづくり。 (2) 図書館の円滑な運営。 (3) 各行事の運営・内容の充実。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・1、2年生対象の朝読書の充実に向けた、読書カードの作製。 ・「図書館システム」の登録作業の継続。 ・現代フォーラムを2回実施。	①読書生活が豊かなものになったか。 ②利用しやすいように、資料の管理ができるようになるか。 ③生徒の考える力を伸ばすことができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○図書館の運営は、継続してスムーズに行えた。 ○「朝読書」を1、2学年で実施し、読書カードを作成した。 ●現代フォーラム等のよりスムーズな運営が課題である。 ●生徒のより積極的な活動が望まれる。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・朝読書の継続的発展に向けて、読書カードの活用を図る。 ・現代フォーラムのあり方の検討。		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇渉外部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・育友会行事の連絡等は、生徒を通しての文書連絡が多いが、アンケートによると、保護者当のメール配信が有効である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇育友会行事の充実を図る。 ◇同窓会との連携を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・渉外部担当者の役割分担の工夫 ・渉外部と同窓会との意思疎通	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 1つ1つの育友会行事の検討 (2) 同窓会70周年行事の検討	(1) 本部役員会での内容 (2) 役員会での内容	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・保護者大学見学会 ・育友会バザー ・育友会進路フォーラム	①アンケートなど ②協力状況など ③アンケートなど	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○保護者大学見学会は、参加者が倍増し好評だった。 ○育友会バザーは、熱心に取り組んでいただき好評だった。 ●育友会進路フォーラムは、内容は好評だったが参加者数が少なかった。	
総合評価 (A) B C D		
12 来年度に向けての改善方策案 育友会進路フォーラムの宣伝方法や内容について、本部役員会で検討していただく。		

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇課題研究、小学生サイエンス教室、出前講座	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・課題研究は、昨年度より2年次から3年次にかけて行う授業として位置づけられた。実施に当たっては、各班の担当指導教員が決まると、発表、まとめまで指導教員任せのところがある。 ・小学生サイエンス教室は、今年度初めての取り組みであり、早急に計画を進めていかなければならない。 ・出前授業は昨年度から始まった行事であり、充実させる必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇課題研究の充実、小学生サイエンス教室の成功、出前講座の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・理科会 ・数学科会 ・理数科会 ・キャリア推進部	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 小学生サイエンス教室に向けて、他校の取り組みなど調査。 (2) キャリア教育推進部との連携。 (3) 小学校へのリサーチ。小学校現場との連携。 (4) 課題研究担当者同士の意見交換、連携。 (5) 出前講座では、授業との関連、発展性のあるものの他に、最先端の研究、技術などの講義で生徒の興味関心を高める。	(1) 児童・生徒の満足度、充実感、達成感 (2) 生徒の学習意欲が高まったり、進路目標の参考となったか。 (3) AO入試や小論文、面接入試などで役立ったか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・小学生サイエンス教室では、参加した児童・保護者とも興味関心が高まったようで、満足していただいた。ボランティアの生徒もよくやってくれた。 ・課題研究では、どれも充実した内容で良かった。 ・出前講座はこれからのので楽しみである。	①児童・生徒の満足度 ②興味関心が高まったか ③学習意欲が高まったか	[A] B C D A [B] C D A [B] C D
11 成果・課題	○小学生サイエンス教室は、児童・保護者とも大変満足していただいた。 ○課題研究では、どの発表内容も充実していた。生徒も、「科学の探究」の手法をある程度理解できたのではない。 ●小学生サイエンス教室は計画的に実施できればよかったが、強引に計画、実施してしまった。早い段階から、各方面との連携、計画策定が必要だった。 ●すべての行事が「理科」中心だった。理数科として、当然数学科との連携強化や、他の分掌と連携強化が必要だった。	
12 来年度に向けての改善方策案 来年度、全国高等学校数学科会の全国大会が岐阜県で開催される。さらに理科、数学科との連携が大切になっていく。理数科の生徒一人一人が「理数科で良かった」思えるよう行事の充実を図りたい。		

【意見・要望・評価等】

- ・新聞記事等でYCKプロジェクトをはじめ吉城高校生のすばらしい活躍が報じられている。地元を愛する子たちの育成はとても大切であり、地元のことをもっと学べるような勉強会が地域としても必要である。
- ・YCKプロジェクトのことを中学生の保護者に聞かせるべきである。高校の活動が外部に正しく届くよう工夫が必要である。間違った風評を払拭しなければならない。
- ・現代フォーラムで意見を述べた生徒たちは、地域とのつながりについてみんな自分のこととして調べて実践していた。これは学習の動機付けにもなっているようである。学校だけでなく地域の諸団体を利用することで、情報収集や活動の場をさらに広げることができるとよい。
- ・地域で吉城高校に対して何か寄与したいと思っている人たちがいる。そういう人たちを掘り起こして活動につなげるとよい。
- ・小さい頃から地元のイベントに参加するなど、体験が必要である。祭の奉仕など有無を言わせない強制参加も長い目で見ればとてもよい。いつかよみがえりこの地域に戻りたいと思ってくれる。
- ・育友会による就職希望者の面接練習では、参加した保護者にとって高校生への生の考えを聞けるなどプラスになることがとても多かった。保護者が学校行事等に参加できる機会について、情報が確実に親まで届くよう発信してほしい。
- ・文化祭は一般公開しないのか。本校を知ってもらいたい良い機会である。平日では親も来にくい。
- ・もし地域から高校がなくなればますます地域自体が廃れていく。吉城高校、飛騨神岡高校は飛騨市になくてはならないものである。